

景気動向

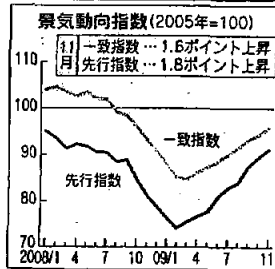
一致指数 8カ月連続上昇

11月 外需主導で生産回復

内閣府が8日発表した2009年11月の景気動向指数(05年=100)は、一致指数が95・9と、前月比で1・6ポイント上昇した。前月を上回るのは8カ月連続。大口電力使用量や投資財の出荷が伸びた。中国経済の成長などがけん引役となり、景気は企業の生産活動を中心に持ち直しの動きが続いている。ただし中小企業の売上高は減少し、円高やデフレへの不安もくすぶる。雇用環境も厳しく、先行きへの予断を許さない局面が続く。

円高・デフレなお懸念 先行き予断許さず

一致指数をもとにした「連続」で「改善」を示している。8カ月以上連続で上昇する景気の基調判断は「2カ月」とした。一致指数が「1997年」以来、



一致指数の主な構成項目

	指数	前月比増減率
改善	投資財出荷指数 (輸送機械除く)	4.1%
	鉱工業生産指数	2.6%
	大口電力使用量	2.2%
悪化	中小企業売上高 (製造業)	-1.2%

日本経済新聞 2009/01/13

景気の数カ月先の見通しを示す先行指数も91・2と前月より1・8ポイント上昇。9カ月連続で改善した。製造業の生産は持ち直しが続いている。11月の鉱工業生産指数は前月比2・6%上昇し、生産財

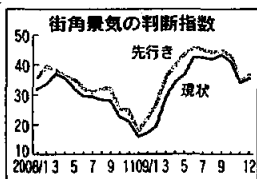
の出荷指数も1・6%伸びた。工場稼働状況も改善しているとみられ、大口電力使用量も2・2%増えた。卸売業の商業販売額も好調だった。ただ一致指数は08年秋の金融危機前の水準を依然下回るなど、景気の水準はなお低く、内閣にはまだ「輸出回復の恩恵を受ける大企業もある」ものの、デフレや円高の影響を受けやすい中小企業の業績は全般に力強さが乏しく、冬のボーナスは前年比2割減で、家計をとりまく環境は厳し

い。ニッセイ基礎研究所の斎藤太郎氏は「外需主導で生産は好調だが、経済全体への波及は限定的」とみている。2月15日発表予定の09年10・12月期の国内総生産(GDP)速報値については、「現時点の統計をもとに試算すれば、実質成長率は4%台にある」と(BNPパリバ証券の河野龍太郎氏)との見方が出ている。アジア向け輸出がけん引し、エコポイントなどが個人消費

街角景気、3カ月ぶり改善

12月、回復力は勢いなく

内閣府が12日発表した2009年12月の景気ウォッチャー調査によると、景気の実感を示す「街角景気」の現状判断指数は前月に比べて1・5ポイント上昇の35・4となり、3カ月ぶりに上昇した。為替レートが円安に転じたほか、エコポイント・エコカー補助制度の延長、成長戦略の策定などで、企業の先行き不安感が後退した。ただ、公共事業の急切れを指摘する声も出ており、景気持ち直しの動きは力強さに欠ける。



調査は昨年12月25日から2千人が景気を5段階で、来月にかけて実施。小規模店。昨年11月はド売店主やメーカー経営、バイ・ショックによる急激な円高で、現状判断指数は8ポイント上昇の36・3と、3

調査では経済対策に対する評価も相次いだ。09年度第2次補正予算ではエコカー購入支援の半年延長が盛り込まれた。中国地方の乗用車販売店では「消費税引き上げ前に買った」所有期間13年超の車を持つ客への効果が「出てくる」と期待する。政府が環境産業を柱に

為替レートも支援材料だ。昨年11月下旬の円相場は1ドル88円前後で推移したが、12月下旬には同92円程度まで水準を下げた。円安は企業の国際競争力の向上につながるなどの指摘が多い。企業マインドが好転したことで「製造業の生産活動も大幅な悪化は避けられそう」だ(野村証券の原上亮

街角景気、主なコメント

(◎は良い、○はやや良い、□は、▲はやや悪い、×は悪い)

政策で明確	
○	エコカー関連でリチウムイオンバッテリーに関する設備の引き合いが増えた
□	減税、補助金の効果が続く6月ごろまでは、現在の状況が続く
×	政権交代で公共工事の大幅削減が見込まれる
為替動向	
○	円高が是正される方向に向かっているの海外の受注が動く
▲	少し円安傾向なのは朗報だが部品値下げ要請も出ている
需要増	
◎	半導体は受注量が増大。1月は4日からフル操業
○	大河ドラマの影響で観光客が増加
消費不調	
▲	有料チャンネルの解約の動きが加速
×	歳末のセールは散々な状況